

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<p><u>事業全体</u>：事業対象地における2歳未満の子どもの栄養摂取を改善する。</p> <p><u>第3年次</u>： 栄養不良の子どもが年間2.3%削減される。</p>
(2) 事業内容	<p>0. 事業立ち上げ</p> <p>当事業の承認後、イエンバイ省保健局及び省人民員会からの事業承認取り付けを開始したが、保健局の承認はすぐおりたものの、人民委員会からの承認取り付けに3ヶ月強の時間を要した(6月23日承認。遅延の理由は、人民委員会が第2期の内容及び成果の書類上の確認をするのに時間がかかったため)。その後6月29日に省・郡の保健局や農業農村開発局、各コミューンの村人等計55名が参加し、昨年度の事業成果および第3期の課題、事業計画を確認するワークショップを実施した。</p> <p>1. 食料確保</p> <p>7月10日、11日にSRI¹拡大のため村人研修が全てのコミューンにて開催された。6コミューンで計240名が参加し、育苗や苗の植え方、除草方法などの技術を郡の農業農村開発の普及員から学び、在来種の種籾の配布を受けて作付を開始した。この研修には第1、2期でSRIを実施した村人も参加し、新たに加わった参加者に指導を行った。低コストな稲作、および食料の種類が多様化を目指し、2コミューン(Binh Thuan、Son Luong)でSRIを実施している4世帯の水田において、試験的に魚を養殖する稲魚農業を開始した。実施世帯は、貧困世帯である、稲魚農業を実践したい強い意欲がある、家のまわりに十分な水源がある、少なくとも300㎡の水田がある、家族メンバーが稲作農業を開始するために必要な池を掘るなどの重労働を行うことができることを条件に選定した。次回の稲作時に実践世帯を拡大する予定である。稲魚農業は、①魚が稲の害虫を食べる、②魚の糞が稲の肥料になる、③魚が入ることで稲の育成に必要な酸素がより効果的に水田に供給されるという意味で稲の育成にプラスの効果齎すと考えられている。また養殖した魚は村人のタンパク源にもなる。</p> <p>栄養菜園に関しては、各世帯の菜園の状況を正確に把握し、必要な世帯には技術支援が行うことで、4つの条件をみたす²栄養菜園が増えるよう、第2期に農業農村開発局と共に開発したモニタリングシートを使用し、モニタリングを強化した。低コストの農業技術で起こりうる問題を定期的に話し合うため、農業農村開発局で2ヶ月に一度、定期会合を設けている。また、栄養菜園の作物としてピーナツの栽培を取り入れ、栽培方法に関する研修に行った。ピーナツはマメ科であるため、村人のタンパク源を供給すると共に、土中の窒素を固定する役割があるため、土の改良にもなる。また6コミューンから、1,269名が参加し、栽培を開始した。</p>

¹ System of rice intensificationの略。幼苗を用い、苗を1本で植える事により、収穫量を増やす新しい稲作方法。

² 当事業では、①年間を通じて4種類以上の野菜が収穫できる、②自家採取可能な種子を用いている、③堆肥など有機エネルギーを利用している、④循環型農業技術を用いているという4つの条件を満たしている菜園を栄養菜園と規定している。

	<p>2. 現金収入の向上 第2期に引き続き、2 コミューン (Son Luong、Minh An) において、2 コミューン 306 世帯の貧困層の女性を対象に貧困層でもアクセスできる回転資金を実施している。安定した運営に向け、回転資金を管理するコミュニティ事業運営委員会 (CSC) のメンバーが、利用する女性に貯蓄、資金管理手法について定期的に助言を行っている。換金可能な家畜の飼育に関しては、6 コミューンの 1,355 世帯で烏骨鶏の飼育、3 コミューン (Son Luong、Nam Lanh、Tu Le) の 64 グループ (542 世帯が参加) でウサギの飼育を行っている。</p> <p>3. 保健・栄養の知識技術改善 6月から9月の間に、村の女性たちの保健・栄養知識の実践強化および定着をめざし、①各村で妊婦や6ヵ月未満の子どものいる母親らのグループによる月例ミーティング、②コミュニティの診療所職員や村の保健ボランティアによる妊婦や乳児のいる家への世帯訪問、③村の保健ボランティア、コミュニティの診療所職員へのフォローアップ研修、④6 コミューンの村31か所に設置した栄養回復センターにおける月に一度の身体・体重測定、栄養研修、微量栄養素を含む食材を使った離乳食の調理研修、栄養不良の2歳未満児への栄養食提供 (月に1回5日間連続)、⑤各コミュニティの診療所における妊婦の定期健診、妊婦に必要な予防接種や鉄分タブレットの提供を実施した。</p>
(3) 達成された効果	<p>1. 食料確保 SRI に関しては、第3期には6 コミューンにて新たに240世帯、3.5ヘクタールの水田でSRIが開始され、8月時点で計1,220世帯、89.8ヘクタールにて実践されている。事業開始当初から第3期の中間時点までに実施世帯は42倍 (開始当初29世帯、現在1,220世帯)、実施面積は26倍 (開始当初3.5ha、現在89.9ha) になった。夏作の稲作の収穫時期は9月から10月であり、収穫量の集計がまだであるが、指標である「対象6コミュニティにおいて、妊産婦および2歳未満の子どものいる世帯のうち700世帯以上の世帯がSRIを実践し、収穫を平均して1.2倍に以上に増やすことが出来るようになる。」は達成できる見込みである。またSRIを実践する4世帯において試験的に開始した稲魚農業では、水田で養殖される魚が害虫を食べるため、農薬を使用しない稲作に成功している。これら4世帯での実践における学びや課題を整理し、次期の稲作では、世帯数を拡大して実施する計画である。これにより、より低コストで、環境に優しく、安全な米作の実践が期待される。</p> <p>栄養菜園に関しては、研修を受けた1,192世帯が³栄養菜園を実践しており、そのうち、4つの条件を満たした栄養菜園を設置できた世帯は、8月時点で51% (610世帯) であり、3月時点 (第2期終了時) の45%から増加していることから、事業終了時には、設定指標の「対象6コミュニティにおいて、妊産婦および2歳未満の子どものいる世帯のうち4つの条件を満たす栄養菜園を実践する世帯が6割に達する」が達成できることが見込まれる。</p> <p>栄養菜園の4つの条件の中でも、常に4種類以上の野菜が採取でき</p>

³ 2013年に実施したベースラインによると、2歳未満の子どものいる世帯数は921世帯であり、その世帯及び妊産婦数十世帯の希望者が栄養菜園の研修を受けた。

ることを最も困難と感じている世帯が多いことから、担当の農業農村開発局のスタッフは、各世帯の状況をより正確に把握し、実践できていない場合に、必要な技術指導を行っていくことを徹底する必要がある。事業の後半は、2期で開発したモニタリングシートを活用し、モニタリングを強化し、技術指導を行っていく。

また、新学期の始まる9月以降、6コミュンの子どもたちに環境教育を実施するため、7月10日から12日、7月28日から30日の2回、中学校の教員、青年同盟のメンバー計34名にToT研修を実施した。

2. 現金収入の向上

第3期は、「融資を受けた貧困女性の7割が、小規模ビジネスを展開し、1,500,000VND以上(約8,000円)の利益を上げることができている」こと、「対象3コミュンにおいて烏骨鶏やウサギ飼育、キノコ栽培による50例以上の販売例が現れる」ことを目標にしている。8月時点では、2コミュン(Son Luong、Minh An)の貧困女性306名(Son Luong141名、Minh An165名)が当活動に融資を受けている。融資を受けた女性は、その資金を肥料、ブタ、水牛などの家畜の購入やお茶の栽培などの小規模ビジネス立ち上げに利用することができる。利益に関してはエンドライン調査で出すことにしているが、小規模ビジネスからの収益により、8月時点で返金率が100%になっていることから、収益は確実に出てきており、事業終了時には、目標とする貧困層の7割が1,500,000VNDの利益を上げることが期待できる。

換金可能な家畜の飼育に関しては、6コミュンで、ウサギの飼育(542世帯)を、烏骨鶏の飼育(1,355世帯)を、昨年12月後半より開始しており、8月時点で、ウサギは開始時の296羽から354羽、烏骨鶏は開始時の6,775羽から8,728羽に増加している。一方、これらの家畜の数は増加しているものの、同時に、世帯によっては、ウサギが子ども産まない、病気で死んでしまうケースも報告されており、世帯間により飼育技術にばらつきがでてきている。今後は、飼育が上手くいってない世帯が、飼育に成功している世帯を訪問するなど学びあいの機会を促進すると共に、農業農村開発局の職員は飼育が上手くいっていない世帯を訪問し、飼育方法を確認し、改善点を指導するなどきめ細かいサポートを行っていく。

昨年12月から開始しているため、対象世帯全体で販売実績が出てくるにはもう少し時間がかかるが、既に世帯によっては、154件(ウサギ2件、烏骨鶏152件)の販売件数が報告されている。烏骨鶏は、市場価値が高いことから、通常の鶏より高値で売られることが期待できる。

キノコの栽培については、第2期までの栽培は6コミュン245世帯で実施しており、第3期においての新たな栽培は11月から行う。

省レベルでは4半期ごと、郡、コミュンレベルでは毎月定例ミーティングが開かれており、換金可能な家畜や野菜の栽培に関して、事業の進捗・課題が共有され、今後の改善策についての議論がなされている。指標である「烏骨鶏やウサギ飼育、キノコ栽培および販売を今後拡大して実施するための事業の成果・教訓が人民員会、保健局、女性同盟、青年同盟など全ての政府関係機関に共有される」は達成できる見込みである。

3. 保健・栄養の知識技術改善

	<p>6月から開始した栄養回復センターでは、これまで99%の栄養不良児（対象地の栄養不良児634名のうち628名）およびその母親が栄養食の提供や研修を受けた。低体重や成長阻害の削減率の測定は今後実施していく予定であるが、これまでの事業経験から、事業目標である一年間で約2.3%の栄養不良削減が期待できる。</p> <p>妊婦検診に関しては、6、7月の実績によると、93%（妊婦121名のうち112名）の母親が定期検診を受けており、第3期の目標である「85%以上の妊婦が出産までに3回以上の妊産婦検診を受ける」という目標値は達成できる見込みである。</p> <p>母乳育児に関しては、実践率の測定はこれからであるが、77%（母親886名のうち、686名）の母親が母乳育児実践グループに入り、母乳育児の実践及び情報交換をしていることから、当事業終了までに「40%以上の母親が、生後6ヶ月まで完全母乳育児を実施する」という目標値は達成できると見込まれる。またできるだけ多くの母親が、同グループに参加するよう引き続き、働きかけをおこなっていく。</p> <p>「80%の母親が4種類の栄養素を含む離乳食作りを実践する。」という指標に関連して、栄養回復センターでは調理実習を取り入れた栄養研修を実施しており、こちらも過去の事業経験から、今期終了時においては目標達成できると考えられる。</p>
(4) 今後の見通し	<p>事業開始の遅れを取り戻せるよう、行政官が対象となる研修を短期間集中して行う、調達のプロセスを効率的に行う、休日も短縮し活動予定を入れるなど、実施スケジュールを見直し、効率的、集中的に活動を行っていく必要がある。第1、2期を通して、全ての活動において、確実に成果はでてきているが、一方で、上手く実践できていない世帯のケースも報告されている。こうした世帯をきちんと把握し、問題点や課題を整理し、適切な時期に技術指導が行っていくこと、またそのシステムを構築することは、今後、活動の定着、事業地に拡大のため、必要であり、事業の後半において強化していく必要がある。</p> <p>加えて、今期は最終年であることから、事業の持続性の鍵となる現地行政が活動を主体的に継続できる環境づくりや、事業で構築したモデルが他地域へ普及していくための文書化・視覚化など、当事業での成果・課題を元に、きめ細かく行っていく活動（調査、データ整理、分析、議論など）を計画しており、こうした活動は、当事業の一定の成果が出てからではないと作業に入れないことから、事業期間の延長の可能性も考慮していく。</p>